

特集…鉄道旅客サービスの進化

「京阪電車プレミアムカー」と叡山電車「ひえい」

観光列車「ひえい」で
洛北エリアの
「観光共創」を担う

京都観光ゴールデンルートの確立や

比叡山・びわ湖エリアの活性化において、

叡山電鉄は洛北エリアの輸送と地域の魅力発信を担う。

そうした中、2018年3月に運行を開始した

観光列車「ひえい」は同年度の「グッドデザイン賞」、

2019年の鉄道友の会「ローレル賞」を受賞し、

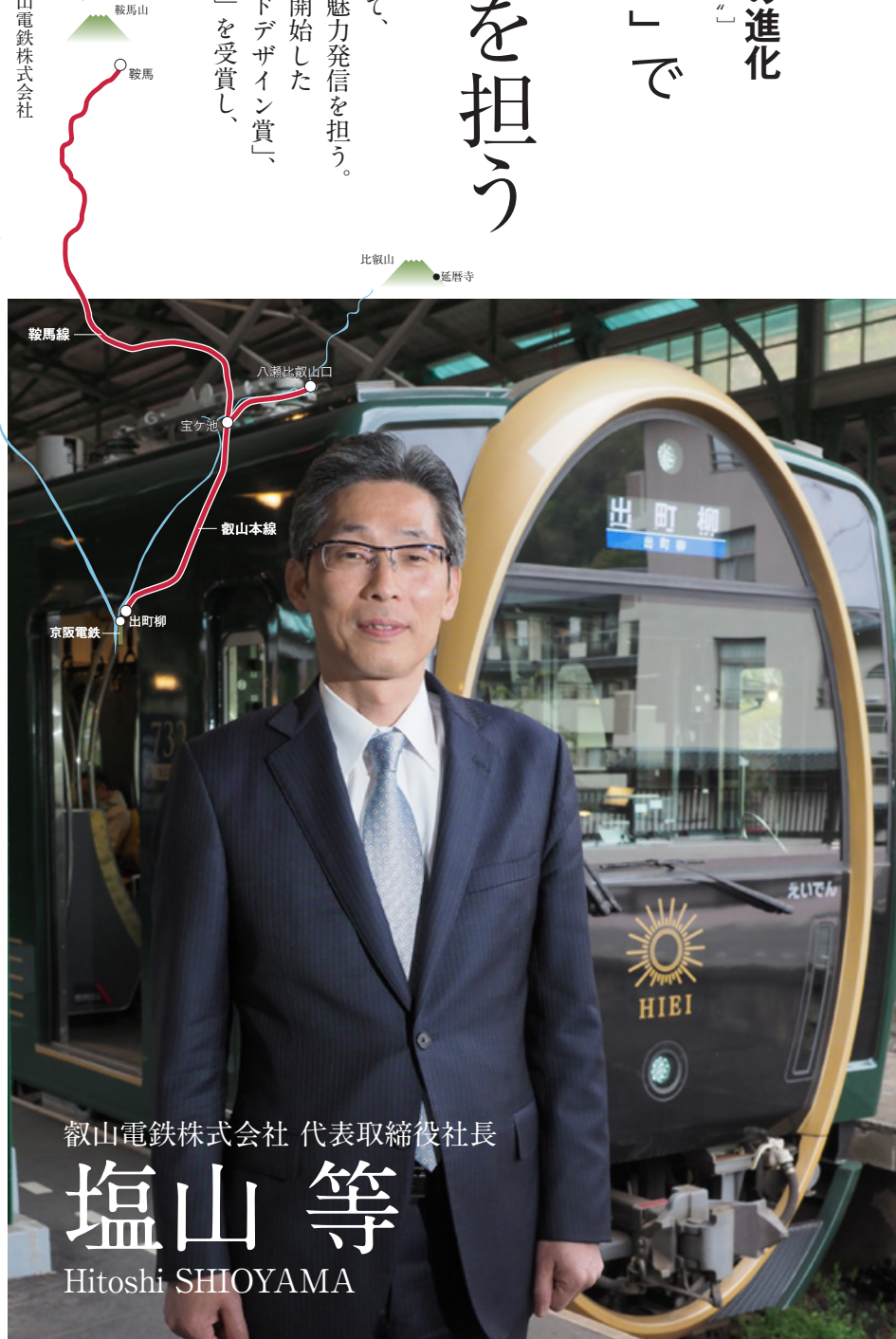
既に人気の高さを示している。

京阪グループ内での責務や洛北地域の

民鉄としての心意気など

塩山等代表取締役社長にお話を伺った。

文●茶木 環／撮影●織本知之／写真提供●叡山電鉄株式会社



叡山電鉄株式会社 代表取締役社長

塩山 等

Hitoshi SHIOYAMA

自然豊かな洛北ならではの「京都」

——今年は鞍馬線の開通90周年ということですね。

塩山 当社は叡山本線（出町柳―八瀬比叡山口）・鞍馬線（宝ヶ池―鞍馬）

の2線で路線距離14・4kmの小さな民鉄ですが、2015年に叡山本線開業

90周年を迎え、今年は鞍馬線が開通90周年となります。長きにわたって、沿

線地域や観光客の方々にご利用いただ

いてまいりました。

線人口なども含め、どのような状況にあるのでしょうか。

塩山 京都市内は、観光はもちろんですが、一方で学生の街としての賑わいがあり、定住者の数に比べてそうした交流人口が多いことが、京都ならではの

特徴になっているかと思えます。

ただ、当社線が走る京都市左京区の人口はわずかですが減っています。当社線のご利用は、通勤・通学の定期利

用、観光などの定期外利用がほぼ半々の状態です。

ここ数年は、利便性向上を図り、快

適性や機能性、楽しさを兼ね備えた車両へのリニューアル、またICカード

の導入なども積極的に進めて、より使いやすく親しみやすい交通手段としてご利用いただけるよう取り組みを続けて

います。八瀬比叡山口駅構内にはテラスを整備して、交流を目的としたイベントなども開催しています。

——観光客にとっても非常に重要な足の役割を担っていますね。

塩山 ええ、路線距離は短いですが、京都の洛北観光の出発地点でもあります。1989年に京阪電車鴨東

線が開通し、当社線と接続する出町柳まで延伸しました。この延伸で大阪方面からのお客さまが格段に増え、当社にとっても経営上、大きなターニングポイントとなりました。

京阪グループ長期経営戦略の主軸戦略である「観光共創」では、京都観光のゴールデンルート確立を目指しています。また中期経営計画では、京都・八瀬く比叡山く大津・坂本くびわ湖に至る観光ルート「山と水と光の廻廊」への回遊性を高める取り組みを強化しています。その中で当社は、洛北観光

線が開通し、当社線と接続する出町柳まで延伸しました。この延伸で大阪方面からのお客さまが格段に増え、当社にとっても経営上、大きなターニングポイントとなりました。

特集：鉄道旅客サービスの進化

〔京阪電車「プレミアムカー」と 叡山電車「ひえい」〕

の一翼を担うとともに、比叡山エリアへの西側の入り口として京都方面からのお客さまを比叡山、さらには大津、びわ湖までお送りする重要な役割を果たしています。

——今、京都では一部でオーバーツーリズムが問題になっていますが、洛北にはいわゆる京都らしい静寂さを感じます。

塩山 京都には年間5000万人という多くのお客さまが国内外からお越しになり、確かに市内中心部は人が集中して飽和気味になっていますね。

ただ、京都の良さは中心部だけではなく、郊外にもたくさんあります。例えば、当社線では出町柳から八瀬方面へ向かうと高低差が60mほどあるんです。鞍馬の方に行きますと180mあり、それだけ高低差があると、気温も景色もがらりと変わります。春は桜から新緑の季節へ、夏は納涼、秋は紅葉、冬に至れば雪景色を見ていただけます。そういうところが京都中心部とはまた違うテイストであり、洛北観光ならではの魅力だと思っています。ですから、当社としても、その魅力を発信して、ぜひ洛北に足を運んでいただけるようにと取り組んでいます。

デザインの力で訴求する観光列車

——そうした洛北の魅力を発信する車両が「ひえい」であり、とてもインパクトのあるデザインが注目と関心を集めています。

塩山 鉄道事業者にとっては安全安心輸送の前提として車両や施設の更新が非常に重要で、当社では1988年に導入した700系車両が新造から30年を目前に控えて、車両の更新もしくは改修を実施する必要があります。

一方、京阪グループの中期経営計画には「観光創造」という大きな戦略があり、「比叡山エリアを盛り上げよう」というグループの思いがありました。このエリアの輸送の一翼を担う当社も、比叡山方面への誘客を果たせるような観光用車両への改造を2014年頃から検討していたんです。

700系車両のうち731号車は、叡山本線開業90周年を記念して、開業当時のデナ1型車両をイメージした「ノスタルジック731」としてリニューアルし、2015年に運行を開始しました。そして732号車を改造し、2018年3月21日にデビューしたのが観光列車「ひえい」です。

ひえいは、269日間をかけた大規模な改造工事となりましたので、当社のような中小民鉄にとっては単独では資金的な部分でなかなか難しかったのですが、訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業補助金制度を活用できたことで、国や自治体にご協力いただき、実現ができました。

——補助はインバウンドに対応した交通サービスの支援事業ということですが、鉄道車両が対象となったのは初めてですね。

塩山 そうですね。行先表示器や車内案内表示器などの多言語対応（英語・韓国語・中国語⇨簡体字）、車内のワゴン運転のご案内に英語を併記することなどは、観光列車をつくるにあたって不可欠な課題でした。

しかし、何といたってもデザインの力が大きいと思います。ひえいのデザインコンセプトは「神秘的な雰囲気」「時空を超えたダイナミズム」で、それを楕円というモチーフで大胆に表現しています。それが言葉の壁を超えて、世界の方々に訴求できている。出町柳駅でも八瀬比叡山口駅でも、外国人観光客の方々は、ひえいを見ると、歓声を上げて乗ってくださいます。車両デザインを通して洛北の、比叡エリアの魅力を発信できていると感じます。

デザインは、GKデザイン総研広島の皆さんにご協力いただいて、あの印象的なデザインに行き着きました。観光列車は全国各地で走っていますから、当社の1両1編成の車両に地域の魅力や思いを込めるとすれば、よほどインパクトがないと伝わらないんじゃないかと考えたんです。しかも観光用車両といっても、利用者の半分を占めているのは通勤・通学のお客さまです。座席数の確保など制約も多くあった中で、素晴らしいデザインが生み出せたと思います。また、車両の改造も、車両メーカーである川崎重工の技術力があってこそ実現できたことですね。楕円のモチーフは、何度も鉄を叩

いて伸ばし、成形するなど、全て手作業で行われているんですよ。

——そのほかの700系はどのようなメンテナンスで更新されていますか。

塩山 もう1両の722号車については、2019年3月にリニューアル工事を実施し、インテリアの更新、車いす・ベビーカースペースの設置を行いました。外観は「沿線の神社仏閣をイメージした朱色」としています。

新緑イメージの「青もみじさらら」

——鞍馬線では展望列車「さらら」が運行されていて、こちらも人気ですね。

塩山 鞍馬線沿線には約250mの「もみじのトンネル」があり、紅葉シーズンには夜間のライトアップや徐行運転を行っています。「さらら」（900系）は、沿線の景色を楽しんでいただけるように大きな窓ガラスを採用して、一部の座席を窓側に向けて



2018年3月21日に開催された観光列車「ひえい」の出発式



上/出町柳へと向かう「ひえい」
左/メープルグリーンにカラーリングした「青もみじきさら」
下/三陸鉄道のカラーリングにラッピングした712号車



配置した車両で、1997年に運行を開始しました。もみじをイメージして、2編成をそれぞれ「メープルレッド」と「メープルオレンジ」の塗装にしています。

また、鞍馬線では現在「鞍馬線開通90周年事業」を行っており、その一環として、メープルレッドのきさらを、新緑の爽やかなもみじをイメージした「メープルグリーン」に塗装し、2019年3月から2020年12月上旬まで「青もみじきさら」として運行しています。こちらもお客さまに好評です。

——京都とは離れた岩手県の三陸鉄道

との連携も強いと伺っていますが、どのような交流をされているのですか。

塩山 三陸鉄道とは、当社が毎年行っている沿線の皆さまへの感謝祭「えいでんまつり」で2009年に全国の鉄道をPRするコーナー「広がり！鉄道ネットワーク」を開催した際、ご協力いただいたのが「緑のきつかけでした」。

その後、2011年の東日本大震災で大きな被害を受けながらも、早期に運行を再開するなど、懸命に努力を続けていらっしやる姿に、鉄道事業者として本当に素晴らしい心意気だと感銘を受け、何とか応援したいと、三陸鉄

道や被災された鉄道のヘッドマークを付けて当社線を運行したり、グッズ販売などを行ったりしました。

また、叡山電車沿線の鞍馬と岩手県がどちらも源義経ゆかりの地であることから、2013年からはイベント「悠久の風々南部風鈴によせて」を開催して、連携を深めてきたんです。

昨年台風21号で、当社線の鞍馬・貴船地域が倒木など大きな被害に遭い、約50日間の運休を余儀なくされた時には、三陸鉄道の中村一郎社長と岩手県の保和衛副知事が激励にいらしてくださいました。これは、本当に嬉しかったですね。

そこで、今年3月23日の三陸鉄道リクス線誕生に際しては、当社も応援を込めてPRしようと、712号車に三陸鉄道のカラーリングをラッピングして3月31日より運行しています。

沿線のお客さまも、観光利用の皆さまも「あの車体の色は何？」と関心を持ってくださるので、いいPRになっているんじゃないかと思っています。——最後に、今後の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

塩山 今年1年間は、鞍馬線開通90周年事業として、記念ヘッドマーク掲出車両の運行や写真展、記念ハイキングの開催など、90年の歴史を感じていただけるような趣向を凝らしたさまざまな取り組みを行っていきます。沿線の皆さまのご協力をいただきながら地域

との連携を強め、沿線の魅力を駅で展示するなど、これからもご愛顧いただける鉄道を目指していきたいと思えます。また、鞍馬線では貴船神社と貴船料理旅館街の最寄り駅である貴船口駅が特にお客さまのご利用が増え、10年間で約2倍にまで増えていきます。貴船口駅は片側ホームの1面1線、道路面から7mの高低差があるんですが、バリアフリー対策が取れていないので、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、貴船口駅の改修に取り組んでいきたいと考えています。

京都には、引き続き、国内外からたくさんのお客さまにお越しいただくと思います。そんな中で、世界レベルで「叡山電車で比叡山や鞍馬に行ったら良かった。また『ひえい』や『きさら』に乗りに行こう」と言っていただけのような感動をお届けしたいと思っています。京都洛北を軸に、広域の輸送や観光を視野に入れて、輸送・観光に携わる方々、地域の皆さまとともにさらなるエリアの活性化に取り組みんでいきたいと思っています。

